

第2回 網走川減災対策協議会 議事要旨

日時：平成28年12月16日（金）10:00～11:50

会場：網走開発建設部 3階 第1会議室

構成員：網走市長（代理：副市長）、大空町長、美幌町長、津別町長、北海道オホーツク振興局長、網走地方気象台長、陸上自衛隊第6普通科連隊長（代理：副連隊長）、北海道警察北見方面本部警備課長（代理：災害係長）、網走地区消防組合消防長、美幌・津別広域事業組合消防長、網走開発建設部長

《議事内容》

- ① 平成28年8月の出水概要
- ② 幹事会の報告
- ③ 水害時の対応に係る市町村向け啓発ビデオ
- ④ 「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づく網走川の減災に関する取組方針（案）について
 - ・主な課題と取組内容について
 - ・北海道緊急治水対策プロジェクトについて
 - ・浸水ナビの説明について
 - ・フォローアップについて

《首長等からの主な意見》

【今夏の大雨対応等に関して】

（網走市）

- ・開発局及び自衛隊からのリエゾン派遣による各種情報の提供、また、排水ポンプ車による内水排除により浸水被害の軽減が図られ感謝。
- ・網走湖において長時間にわたり計画高水位を上回るなどの洪水であり、改めて水害に対する防災意識の向上が必要と感じた。
- ・基準観測所ではない網走湖の水位観測所（川尻観測所）による、観光施設への避難情報や宿泊者（観光客）に対する避難情報発令の判断が困難であると感じた。

（大空町）

- ・網走開建のほか関係機関からの各種情報の提供、開発局や流域市町村からの排水ポンプ車による内水排除応援により浸水被害の軽減が図られ感謝。

- ・基準観測所ではない網走湖の水位観測所（川尻観測所）による、網走湖周辺の住民や観光施設への避難情報や宿泊者（観光客）に対する避難情報発令の判断が困難であると感じた。

（美幌町）

- ・ホットラインによる避難行動に関する助言やリエゾン派遣による各種情報の提供、また、排水ポンプ車による内水排除により浸水被害の軽減が図られ感謝。
- ・浸水被害の恐れのある地区には、早めに避難情報を出し、住民の避難行動を促すことが出来た。

（津別町）

- ・平成4年の水害を契機に実施された網走川津別地区における河道掘削による効果か、今回の水害による被害はなかった。
- ・ホットラインによる避難行動に関する助言など関係機関からの各種情報の提供をもとに、避難情報を地区別に出すことが出来た。
- ・避難情報は、川沿いの住民を対象に流したいが、テレビ等による情報により地区外の方々も反応してしまうので、今回は川沿いに住む住民の方々に対して個別対応をしたのが実態であり、避難情報の伝え方に課題があると感じた。
- ・大空町より排水ポンプの貸出の要請があり、町所有のポンプを貸し出したが、今回の3度にわたる洪水（台風）であったことから、ポンプを戻してもらうなどの対応となった。また、ポンプの動力となる電源確保（自家発電機）について、リースで対応していたが、初めの洪水で一度返却してしまい、次の台風時には、再度のリース品が借りられなくなる事態を考慮し、振興局にも業界への支援調整をして頂いた。

（美幌・津別広域事業組合消防）

- ・美幌町においては、早めの避難情報により、消防としても自宅待機命令などの早い段階で体制確保ができた。

（北海道警察北見方面本部）

- ・避難誘導、救出・救助活動を消防など関係機関と一体となって行ってきたが、住民の危機意識の向上が大切だと感じた。

（陸上自衛隊第6普通科連隊）

- ・関係機関の協力のもと、自衛隊としての活動することが出来たと感じている。

(網走地方气象台)

- ・今回の洪水は、オホーツク管内にとっても記録的な豪雨災害であった。ここ数年、降雨量が多くなっていることは現実であり、北海道も本州並みの降雨状況となっ
てきているため、経験していない雨を経験しているのだという認識が必要である。

【減災に向けた今後の取組方針について】

(網走市)

- ・網走湖の高い水位に対応した対策について検討する必要がある。
- ・網走湖周辺の住民や観光施設への避難情報や宿泊者（観光客）に対する避難情報
発令の判断ができる観測施設の整備など検討が必要である。また、土地勘のない
観光施設利用者が確実に避難出来るような誘導についても検討を進めていく必
要がある。
- ・内水被害が頻繁に起きる地区などについて、排水活動が容易に出来る整備も必要
である。
- ・網走市では、土砂災害危険箇所が166箇所あり、土砂災害による防災体制に加え
水害に対する防災体制の強化についても取り組む必要がある。

(大空町)

- ・排水対策など水防資機材など出来る範囲内で強化していくハード対策と、水災害
に関する行動マニュアル整備やハザードマップの見直しを行うとともに、自主防
災組織の強化を引き続き取り組んでいく。
- ・平成10年、13年の洪水により網走湖の堤防から漏水するなどの被害が発生した
ことから、自衛隊、消防、警察などと連携した水防実働訓練を継続・定期的に実
施していく。
- ・網走湖に隣接する宿泊施設箇所には、堤防がないため、水位が上がると浸水する
といった被害が近年増加していることから、浸水被害を軽減するような対策につ
いても検討していく必要がある。
- ・オホーツクの基幹道路となる国道39号が冠水し途絶することで、防災資機材等
が運搬できない等の事態に備えて、大空町地区にも水防災資機材を補完できる水
防拠点となる場所が必要と考えている。
- ・網走川の上流に農業のダムがあるので、このダムを洪水対応に活用するようなこ
とも考えていく必要があるのではないか。

(美幌町)

- ・美幌町の河道区間は水位の上昇が著しく、樋門を閉めるタイミングが早く、内水
氾濫が生じてしまうといった課題があるため、河川整備による水位低減（河道掘

削) が極めて重要である。

- ・美幌町の住宅密集地は、内水被害の常襲地帯であり、これまで幾度となく排水ポンプ車による排水を行って頂き、その能力は絶大な能力を持っていると感じている。是非、管内のポンプ車の増強も検討して頂きたい。
- ・住民の避難に関しては、空振りを恐れず出来るだけ早期に避難情報を出すよう引き続き努力していく。特に要配慮者など高齢者の避難は、相当な時間がかかることから引き続き早期に避難情報を出す取り組みを行っていく。
- ・災害は人命に関わる事なので、より危機的意識を持たせるような気象情報が必要である表現をしてほしい。

(津別町)

- ・上流地区は、下流地区に比べ比較的浸水時間が短いことから、洪水の状況に応じて下流の流域市町村等へのポンプの貸し出しを積極的に行っていきたい。
- ・また、今回の洪水のような現象（連続台風等）を踏まえて、ポンプ稼働のための電源確保についても、検討していきたい。
- ・自主防災組織についても強化を引き続き行っていく。

(網走地区消防)

- ・過去の洪水などの経験をもとに活動を行っているが、近年の洪水は過去の規模を上回る洪水が多発しており、大規模水害に対して十分な行動を行えるようオーバーリアージとして考えるよう努力していきたい。
- ・東日本大震災を経験した仙台消防の話によれば、住民はなかなか逃げないのが実態であり逃げ遅れによる被害が多く発生している。そのため、住民に対して相当強い口調で避難行動の情報を伝えることが大切であると教えられた。

(美幌・津別広域事業組合消防)

- ・住民の安全を守るための装備のほか、避難誘導や救出・救助活動するための装備も大切であり、計画的に整備していきたい。

(北海道警察北見方面本部)

- ・住民の避難行動危機意識の啓発として、気象台の協力のもと、警察内部での防災啓発の勉強会を12月に開催した。引き続き関係機関と協力しながら、このような取り組みを実施していきたい。
- ・被害に遭うのは、観光客や外国人が意外に多いのも事実である。そういった人たちへの情報伝達というものを考えていく必要がある。

(陸上自衛隊第6普通科連隊)

- ・住民の生命・安全を守る事を主眼において行動を実施しているため、公共性、緊急性、非代替性という観点があればいつでも自衛隊を派遣し、行動が出来る体制を整えている。(ボートを活用した救助活動や救急措置など、水防活動等でお役に立ちたい)
- ・住民が避難行動する際には、通帳や印鑑などの身の回りの整理に時間を要しているケースもある。緊急性のある中でそのような行動に対しては、厳しい口調で接していくことも必要である。

(網走地方气象台)

- ・減災についてはハード対策・ソフト対策、共に重要であり、气象台では特にソフト対策の面で情報の改善を図る。現在、警報等については文字情報であるが、平成29年度の出水期を目途に警戒を要する期間や危険度等について視覚的に分かりやすい情報を提供する。また、気象情報に用いるキーワードについて、危機感が伝わるよう的確な表現を用いる。

(北海道オホーツク振興局)

- ・網走川の支川の魚無川(水位周知河川)については、平成29年度に、想定最大規模の降雨を想定した浸水想定区域図を公表する予定である。
- ・今回、浸水想定区域図が公表されたが、大雨災害において、避難判断水位や降雨量などの気象状況を総合的に判断し、避難行動のための情報を市町村から住民等にいち早く周知することが重要であり、国や道から地域の状況に応じて助言を行っていくことも必要ではないかと考えております。
- ・また、新たな避難所や避難経路の確保に当たっては、避難所までの距離や時間なども考える必要があり、大洪水だけでなく、中小規模の洪水も勘案しながら設定していくことか望ましいと考えております。
- ・先般公表された、北海道緊急治水対策プロジェクトでは、各一級河川の北海道管理区間及び二級河川においても協議会を設置し減災対策の検討・取組を進めることとなっています。
これを踏まえ、今後においては、当協議会に北海道管理区間も含めて協議していくことを検討しているところです。今後においてもどうぞご協力をお願いします。
- ・道では、今年の台風被害などを鑑み、河道内樹木伐採などの河川維持管理のあり方について検討を進めています。限られた予算の中で維持管理を進めていくためにはコスト縮減に向けた取組が必要でありますので、今後におきましても皆様のご協力をお願いします。

《フォローアップについて》

- ・今後出水期前に協議会を開催し、各機関の取組状況の確認や取組の内容などについて協議していく。